

中学生の「税についての作文」優秀作品の紹介

徳島県知事賞

今、自分にできること

鴨島第一中学校 2年

江 本 果 穂

私が通っている中学校では、昨年度から校舎の改築と耐震工事が行われています。校舎の様々な所がきれいになったり、職員室棟が新しく建て直されたり、テニスコートが作られたりと、学校がとてもきれいになりました。今も工事は進んでおり、工事用の車両が敷地内を行き来しています。私は学校がきれいになり、嬉しいとしか思っておらず、工事にかかる費用のことなど全く考えてもいませんでした。しかし、ある日、担任の先生から、「トイレの便器を一つ買い替えるだけでも、数十万ものお金がかかる。」ということを知りました。また、工事にかかる費用は、税金で払われているということも知りました。その時、「税金があるから、私は学校に通うことができているんだ」と思いました。

私は、毎日当たり前のように学校に通い、授業を受けています。毎年、新しい教科書もお金を払わずに受け取り、使用しています。しかし、もし税金がなければ、このように毎日学校に通うことはできないと思います。私が毎日勉強することができるのは、たくさんの大人たちが汗水を流し、一生懸命働いて税金を納めてくれているからだと思います。

私たち中学生一人あたりの年間教育費は、公立学校の場合約九十五万円だそうです。百万円近くの金額を、私たちが学校に通い勉強するために、毎年税金がその金額をまかなってくれています。もし税金がなければ、学校に通えない人もいると思います。税金は、本当にありがたいものだと思います。他にも税金は、私の身の周りでもたくさんのことに使われているし、安全・安心に生活ができるように支えてくれています。

私はまだ自分のお金で税金を納めていません。大人たちが納めてくれた税金で、学校に通って勉強をしたり、生活を支えてもらったりしています。世界には学校に通いたくても通えない子どもたちや、勉強がしたくても勉強することができない子どもたちはたくさんいます。今、当たり前のように学校に通い、快適な場で勉強することができる私たちは、本当に幸せだと思います。

中学生の私たちに今できることは、公共物を大切にしたり、税金に関心を持ち、その仕組みについて知識を増やしていくこと、そして日本の将来を担う者として、勉強を一生懸命がんばることだと思います。自分が大人になり、納税者になったら、今まで税金を納めてくれた大人の人たち、そして、私たちの生活を支えてくれた税金に、義務としてではなく、恩返しをするつもりで納税していきたいです。

私はまだまだ税金について学ぶべきことがたくさんあります。未来の納税者として、もっと税金についてしっかりと学んでいきたいと考えます。そして、今できることをひとつひとつ行い、将来立派な納税者になりたいと思います。

中学生の「税についての作文」募集は、毎年、徳島県納税貯蓄組合連合会が中心となって行っている租税教育推進事業で、平成23年度募集では県下全体で7,522点（86校）の応募がありました。

上記の作品は、その中から特に選ばれたものです。